福井赤十字病院広報誌 第15号

ほわほわ

福井赤十字病院

理　　念　人道・博愛の精神のもとに、県民の求める優れた医療を提供します。

基本方針　◎患者様の人権と意思を尊重し、相互理解に基づく医療を遂行します。
◎医療の質の向上に努め、良質な医療を提供します。
◎地域医療機関との連携を推進し、一貫した医療の提供に努めます。

脳卒中からの生還のためには

脳神経外科部長
兼 脳卒中センター長
細谷和生

●脳卒中の種類

脳の血管による疾患を脳卒中と呼びます。脳卒中には血管が閉塞しておきる「脳梗塞」、脳内の細かな血管が切れる「脳内出血」、太い脳動脈にできたふくらみの脳動脈瘤が破裂する「くも膜下出血」の３種類があります。

●脳卒中の症状

くも膜下出血は突然の頭痛。脳出血や脳梗塞では頭痛は少ないようですが、急に手足が動かなくなるというような突然の脳の働きの障害が典型的です。

●脳卒中になったなら

「Time loss is brain loss（遅れるほど脳をなくす）」、これはアメリカでのテレビ広告標語です。受診が早ければ早いほど脳卒中の後遺症を少なくすることになるのですぐに病院を受診するよう警告しています。最近はいろいろな診断方法が開発されてきていますので、受診後すぐに脳卒中かどうか、またどのタイプの脳卒中かを診断することができます。

●脳卒中の治療

1）**くも膜下出血**：突然の激しい頭痛が症状です。発症後は再出血を繰り返して死にいたる可能性の高い疾患です。診断後はすみやかに再出血予防の点滴と手術が行われます。再出血は24時間以内が多いとされています。疑われたらすぐに病院を受診してください。

2）**脳内出血**：出血した脳の反対側の手足の麻痺が特徴です。高血圧が原因で脳内の血管から出血するので、すぐに病院で血圧を下げる必要があります。場合によっては出血そのものを取り除く緊急手術が行われます。

3）**脳梗塞**：つまった脳血管の場所によって症状は異なります。発症後3時間以内の人に限り使用することができる血栓そのものを溶かす注射薬が使用できるようになりました。

いずれの治療でも、入院から急性期治療、その後のリハビリにかけて専門の医師や看護師などのスタッフによる高度な治療が必要になります。

●脳卒中センター

6月1日より県内初の脳卒中診療全体を完納する脳卒中センターが開設されました。ここでは脳卒中患者を時間の無駄なく初期治療できるように脳卒中医が24時間常勤しています。他施設および救急隊からの脳神経疾患の搬送要請は、専用のPHS（脳卒中ホットライン）で脳卒中医が常時直接対応します。入院後は6床あるSCU（脳卒中ケアユニット）で超急性期治療を行い、また発症早期からのリハビリにも力を入れ、早期離床、早期退院を目指しチーム医療を行っています。

構成メンバーは、脳神経外科医、神経内科医、専任看護師、専任リハビリスタッフ、医療相談員（MSW）などです。脳卒中専門医3名、脳神経外科専門医4名、脳血管内治療専門医2名が常勤し発症直後の超急性期から専門的治療に当たっています。

◎脳卒中で倒れたときの対処◎

はじめに次のことを確認し、救急車を呼ぶ。

⬇

1.意識があるかどうか
2.呼吸をしているかどうか
3.吐いていないかどうか
　吐きそうだったら横向きに寝かせる

⬇

救急隊の人が来たら発作から今までのようすを伝える。

プール熱とは

小児科部長
小黒克彦

＜プール熱とは＞

正式には咽頭結膜熱と言います。アデノウイルスが引き起こします（数種類の型があります）。主に6月頃から増加し始め7、8月に患者数のピークを迎えます。多くは学童や幼児が感染します。夏場、プールを通して子どもたちの間で流行することが多いのでプール熱と呼ばれています。実際にはプールに入らなくても、くしゃみなどから飛沫感染することもあります。染伝力が強く、今年は過去10年間で最も流行しています。潜伏期間は5－7日です。

＜症状＞

39度前後の発熱が4－5日間続き、喉の痛み（咽頭炎の症状）を訴え、目が赤く目脂が出ます（結膜炎の症状）。その他に頭痛、腹痛や吐き気を訴えることもあります。

＜治療＞

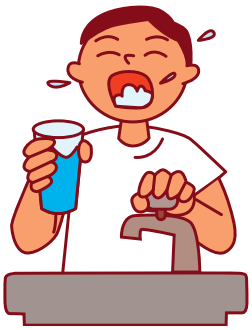
特効薬はなく、熱や喉の痛みを抑える対症療法が中心です。殆どは一週間以内に治癒します。投薬によって有熱期間が短縮することはありません。

＜気をつけること＞

喉の痛みが強いため食欲が低下しますが、少量ずつ取れていれば大丈夫です。水分は十分取らせて下さい。発熱期間が長引く時や水分摂取量が著しく少ない時は診察を受けて下さい。

＜予防＞

流行期にはうがい、手洗いの励行を心がけて下さい。水泳前後のシャワー、洗眼もきちんとさせて下さい。目脂から感染することもあり、タオルは共用しないように。



第6回 赤十字月間・看護週間記念行事

5月の赤十字月間と看護週間を記念し同時に行事を行うようになり、6回目を迎えました。「健康一番・赤十字から」～あなたの健康は大丈夫～　をテーマに記念行事を行いました。

今年は、初めての試みとして、入院患者様に保険証ケースをプレゼントしました。開会式では病院職員・看護学生・ボランティアの方など15名の1分間スピーチが行われ、一日体験看護師には6名の方が参加くださいました。例年好評の血圧・血糖・体脂肪・骨密度・隠れ脳梗塞の測定には多くの方が参加し、“自分の身体に注意を向ける機会となった、待ち時間が有効に使えた”など感謝の声と、“混んでいる、所要時間を知らせてほしい”などの参考意見も頂きました。体操・救急法は開始すると参加者が増え、相談コーナーは医師・薬剤師・栄養士・主事・看護師など総合的に取り組み、展示コーナーでは赤十字病院の役割・赤十字の活動について展示しました。地域の方々からは、「いつまでも続けてほしい、次回も来ます、笑顔の対応が心地よかった」など嬉しいストロークをたくさん頂きました。

2日間、病院多職種の方々の参加・協力と日本赤十字社福井県支部・福井県赤十字血液センターの応援があり、すっかり福井赤十字病院の恒例行事となったことを感じました。

行事予定

●幼児安全法支援員養成講習

日　時：8月12日（土）・19日（土）
・26日（土）
9:00から15:00
会　場：日本赤十字社福井県支部
教材費：一般1,200円

●救急法救護員養成講習

日　時：8月22日（火）・23日（水）
・24日（木）・25日（金）
9:00から17:00
但し、25日は9:00から12:00
会　場：日本赤十字社福井県支部
教材費：一般3,000円

●家庭看護法介助員養成講習

日　時：9月5日（火）・6日（水）
・7日（木）
9:00から17:00
会　場：日本赤十字社福井県支部
教材費：一般1,000円

申し込み先：日本赤十字社福井県支部　TEL.0776-36-3640　FAX.0776-36-6299

Topics トピックス

6月の病院の行事

すずらんの贈り物

6月9日（金）に全日空のキャビンアテンダント（ＣＡ：客室乗務員）により、すずらんの鉢植えと押し花150枚が「しあわせ」のメッセージに詩を添えて届けられました。

すずらんの贈呈は、1956年から続く全日空の社会貢献活動で、今年で51回目を迎えます。入院患者様の一日も早い回復を願った全日空社員による手作りの押し花が、ＣＡと看護師2名により小児科、産科など各病棟の患者様に手渡されました。花の香りと、心のこもった詩は患者様への安らぎのプレゼントとなったことでしょう。

駐車場工事完了

混雑・周辺渋滞等で大変ご迷惑をおかけしておりました駐車場工事が完了いたしました。工事中、皆様にはご協力とご理解を頂きまして誠にありがとうございました。

◎駐車可能台数　430台

一般用 408台　車椅子専用 10台

身障者用 12台

◎入出庫ゲート

2機（正面ゲート・西ゲートのいずれからでも入出庫可能です）

※正面ゲート混雑時には、西ゲートにお廻りください。

ヒポクラテスの木

正面玄関北側の庭園にあるヒポクラテスの木（日本赤十字社創立100周年記念樹）は医療倫理を伝えるものとして、ヨーロッパで最も神聖な木と言われております。

スマイル前の庭園

患者情報室スマイル前に庭園を造成いたしました。晴れた日には足を運んでみてはいかがでしょうか？

※この庭園並びに一部の構内緑化工事費は、病院職員による緑基金（寄付金）で賄われました。基金の主旨に賛同した職員により、10,816,000円が集まりました。

編集後記

ジメジメした暑さのなかに、一段とかげを深めた街路樹の万緑が爽やかな心地よさを感じさせる７月は、七夕祭りなど、時にはセンチな気分になって星を眺めることも多いかと思います。でも、私はやっぱりセンチよりもランチ！土用の丑の日には「う」のつくものを食べる習慣ですが、うなぎにウニに牛にうどんにと、皆さんしっかり栄養をつけ、元気モリモリで厳しい夏を乗り切りましょう！　（広報委員　Ｈ．Ｙ）

★ご意見・ご感想は広報委員会事務局（総務課）まで

「ほわほわ」第15号
2006.7発行　広報委員会
〒918-8501福井市月見2丁目4番1号
TEL.0776-36-3630（代）FAX.0776-36-4133
URL:http://www.fukui-med.jrc.or.jp/
E-mail:webmaster@fukui-med.jrc.or.jp